

大学生活とキャリア意識の向上を支援する CC 手帳の開発とその効果 (第三報)

伊藤 征嗣*・岡 浩平*・内藤 望*

(平成27年10月28日受付)

Assessment of the Pocket Book for Supporting Campus Life and Career Development (The third report)

Seiji ITO, Kohei OKA and Nozomu NAITO

(Received Oct. 28, 2015)

概要

4年前から著者らは毎年学科で発行し続けているオリジナル手帳(CC手帳; Campus life and Career)による学生の大学生活とキャリア意識の向上を図っており、今年度で第四版となる。本稿では、1年次から配布し続けている現4年次生に対して、使用状況ならびに2015年9・10月のアンケート実施時までの就職活動結果を併せて、追跡調査・分析を行い、CC手帳の効果について検証した。その結果、就職活動時期に入ったあたりでCC手帳の有益性を改めて理解されるようになり、CC手帳に対して好意的な学生が内定を取りやすい傾向にあることが分かった。

キーワード: CC手帳, 大学生活, キャリア意識向上, 追跡調査, 就職活動

1. はじめに

学生が将来の夢や目標を意識して生活することは大切であり、それを達成するには初年次から卒業までを視野に入れたスケジュール管理やポートフォリオの利活用が重要である。スケジュール管理ツールとして他大学ではPDA(Personal Digital Assistants)やポートフォリオを意識した独自の手帳を配布している。本学でも初年次教育としてキャリアデザインI等の講義での教育・指導、Gmailの付加機能であるカレンダー機能が提供されている。しかし、PDAは高価であり配布が難しく、PDAを所持していない学生にはWebコンテンツによる指導も困難である。そこで、ポートフォリオを意識した独自の手帳の発行はスケジュール管理だけでなくポートフォリオのツールとして常時携帯が可能となる。さらに、その手帳に就職情報等を付加することで、初年次からキャリア意識を向上も図ることも期待できる。

そこで、本研究は地球環境学科の学生が充実した生活を

過ごすためのツールとして、4年後を見据えた予定を組めるCC(Campus life and Career)手帳^[1]を発行・配布し、個々の学生の生活目標を計画・実践できると同時にスケジュール管理能力とキャリア意識を向上させることが目的である。特に、地球環境学科の学生は就職業界が一つに定まっておらず多様な業界に就いている。そのために、学内他学科と比較して、学生が志望企業を絞るまでに時間がかかる特徴がある。よって早期からのキャリア意識向上がより切実な課題となっている。

本稿では今年度配布したCC手帳第四版の概要について説明し、1年次から配布し続けている現4年次生に対して、第三報以後の使用状況を中心に述べる。さらに、2015年9・10月のアンケート実施時までの就職活動状況とあわせてCC手帳の追跡調査結果も報告する。

* 広島工業大学環境学部地球環境学科

表1 CC手帳の主なコンテンツ

① 表紙など
② 入学目的, 年間目標, 自己発見レポート記録欄など
③ 月間スケジュール・各学年各月のアドバイス
④ 教育課程表と各種資格要件対応表
⑤ 資格試験一覧, 卒業生の就職先一覧
⑥ 就職活動体験記
⑦ 21, 24号館配置図
⑧ 各教員連絡先一覧, 便利なサイト集など



図1 作製したCC手帳

2. CC手帳の概要

2.1 内容

CC手帳は当然ながら学生にとって便利で使い易いものが望ましい。さらに、第一章で述べたように、充実した学生生活ならびにキャリア意識を向上させるためのツールを目指す。また、他大学の事例を参考に手帳の開発を行った。

検討の結果、CC手帳は4年間継続して利用できるよう、中身の取捨選択が容易なルーズリーフ式のものを作製する。さらに、常時携帯できるよう、持ち運びに便利なポケットサイズのものを作製することにした。表1は主なコンテンツを示す。

表1の⑤卒業生の就職先一覧について、昨年度までは本学科の前身である旧環境情報学科の一部の卒業生就職先を包含して掲載していたが、第四版では旧学科の学生を除いて本学科卒業生の就職先のみを掲載した。これは、本学科が新設されて10年目となり、卒業生の人数も増えてきたことに伴い、就職先の情報も十分集まってきたので情報を精査した。また、新たに⑥卒業生OBの就職活動体験記を掲載した。これは、毎年就職部が発行している「就職・進学懇談会資料」から抜粋したもので、学生の保護者に配布されている。しかし、学生にとって有益な情報であるにも関わらず、保護者が学生に渡さない限り学生本人が目にする

表2 アンケート実施日, 対象者, 回答数一覧

	実施日	対象者数	回答数
第一回 (1年後期中旬)	平成24年11月26日	75人	67人
第二回 (1年後期下旬)	平成25年1月21日	75人	70人
第三回 (2年前期下旬)	平成25年7月23日	73人	65人
第四回 (2年後期下旬)	平成26年1月15日	73人	60人
第五回 (3年後期上旬)	平成26年10月	67人	49人
第六回 (3年後期下旬)	平成27年1月	66人	56人
第七回 (4年後期上旬)	平成27年9・10月	66人	51人

機会が無いことから、その資料の中でも特に有益であると考えられる就職活動体験記をCC手帳に掲載した。

2.2 配布対象学生

配布対象学生は本学科の学生に配布しているが、1・2年次生は全員に配布し、3・4年次生には希望者のみに配布した。元々、CC手帳は低学年に対して重点を置いたものであること、そして、3年次生はCC手帳だけでなく就職部発行の手帳も配布されて選択の幅が増えることから、希望者のみとした。第四版の配布を希望した3年次生は75人中41人であり、4年次生は66人中46人であった。

3. アンケート

3.1 実施概要

配布後の追跡調査とCC手帳の指導を兼ねて定期的にアンケート調査を行っている。アンケートはすべて記名式とし、4年次生に対してはこれまでに表2に示す日程で7回実施した。また、配布を希望しなかった学生にも回答してもらっている。アンケート内容は各学年で異ったアンケート項目を作成し、4年次生に対してはこれまで行った利用状況の把握と今後の改善点の項目を最低限に抑え、就職活動を経験してCC手帳の効果ならびに改善点について新たに設けた。また、第五回目以降は授業などを利用して一斉に調査を行わず、ゼミ教員を通じてアンケートを実施した。本稿では、第二報^[2]以後の第六・七回目のアンケート結果について詳細にまとめ、さらにアンケート記入時の就職活動状況とを比較してCC手帳の効果を検証する。

3.2 CC手帳の利用状況

まず、CC手帳の利用状況について説明する。図2にその利用状況の推移を示している。ただし、グラフ中の数字

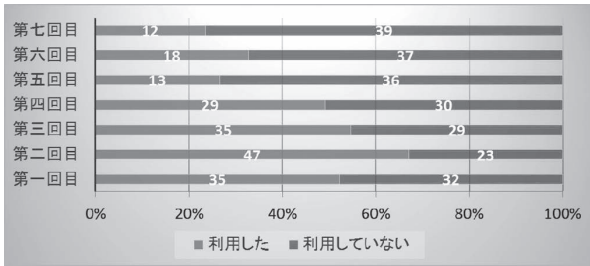


図2 CC手帳利用状況の推移

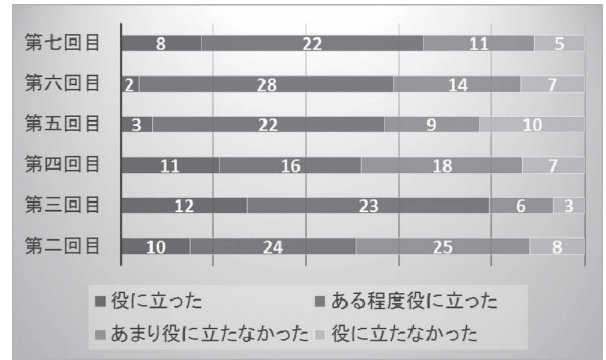


図5 勉学面で役に立ったか

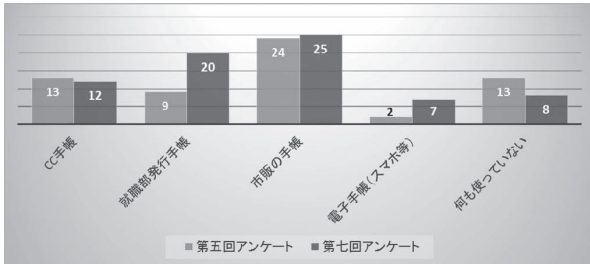


図3 利用している手帳（複数回答可）

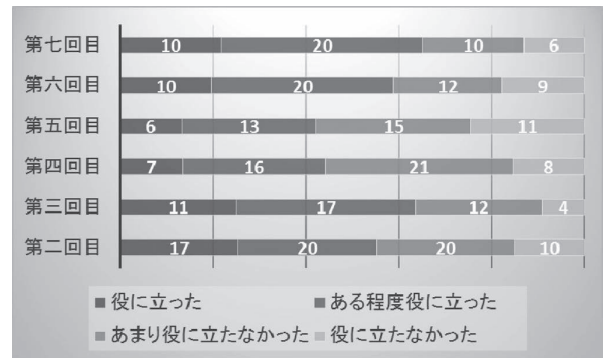
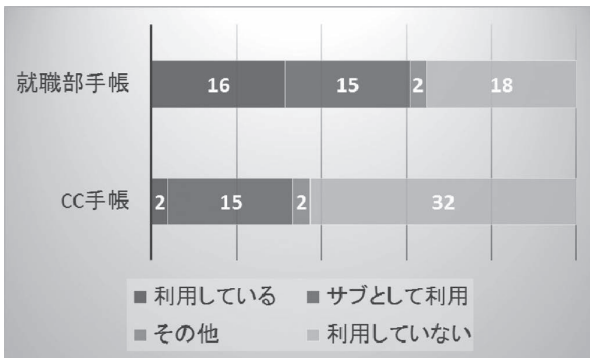


図6 生活面で役に立ったか



(a) 第七回目アンケート

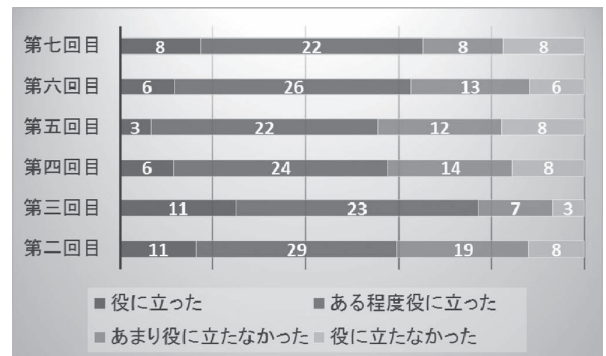
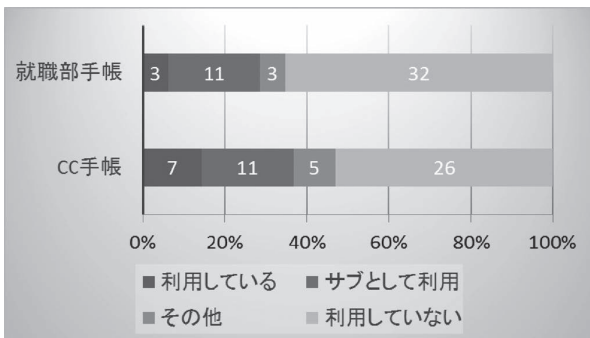


図7 就職面で役に立ったか



(b) 【参考】第五回目アンケート

図4 CC手帳と就職部手帳の利用状況

は回答人数を示す。ただし、第七回目のみは設問項目を図3に示すどんな手帳を利用しているかの回答結果（複数回答可）から抜粋した数字を掲載している。図2から、第二報でも述べたが、利用している割合が月日を重ねるにつれ低くなっている傾向がある。第六回の利用率が増加しているものの、この傾向は変わらないことが分かる。また、図3から就職部発行の手帳の利用率が4年次ではかなり増加

したことが分かる。図4は第七回目のアンケート時のCC手帳と就職部手帳の利用形態に関する結果であり、参考として第五回目に取った同様の結果も掲載する。この図からも、就職部の手帳は4年次になると利用者が増えており、4年次の就職活動には有益であると認識していると考えられる。一方、CC手帳も主として利用している人数は第五回目アンケートと比較して少なくなっているが、自由記述を見ると学科固有の情報が掲載されていて有益であるといった回答もあり、就職活動などの有益な情報が含まれているという認識があるといえよう。

3.3 CC手帳の効果に関して

次に、CC手帳の効果について説明する。図5から図7

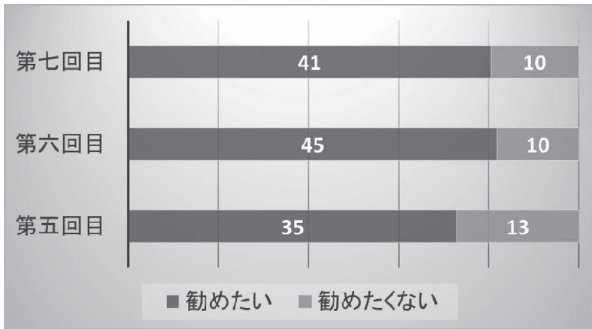


図8 後輩へCC手帳を薦めたいか

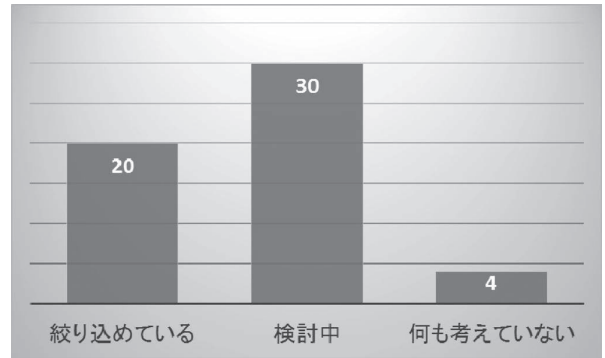


図9 応募先を絞り込めているか

は勉学面，生活面，そして，就職面に対して役立ったか否かの回答結果をそれぞれ示す。これらの図から，「役に立った」と「少し役に立った」を合わせた回答について第五回目までは減少傾向であったが，第六回目以降は増加傾向になった。第二報では，減少した傾向の原因が「CC手帳の効果が使わなくなった学生にも浸透していることが分かる。すなわち，CC手帳の有益さを認識しているにも関わらず，使いやすさなど別の理由で他の手帳に移行したものと考えられる。」と述べたが，CC手帳の有益さが改めて認識し，過去を振り返ってみると結果的に役に立ったと思ったのではないかと考えられる。

図8に後輩へCC手帳を薦めたいかという回答結果を示す。概ね高い割合で勧めたいと述べているが，特に，第六回，七回目の結果は80%以上が後輩に薦めたいという結果になった。CC手帳が就職活動にある程度は役立つと認識していることから，このような結果になったのではないかと考えられる。

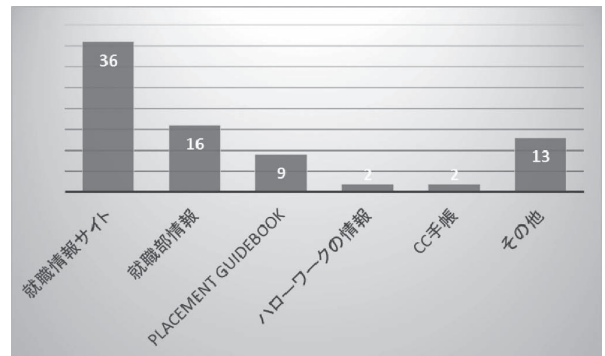


図10 絞り込んだときに参考にした情報は何か（複数回答可）

3.4 キャリア意識に関する効果

ここでは，CC手帳と就職状況の関係について述べる。第六回目アンケートで，応募先を絞り込めているかを問う設問と，絞り込んだときに参考にした情報は何かを問う設問（複数回答可）を設け，それぞれの結果を図9，10に示す。3年次の1月時点でほとんどの学生が進路に対して考えており，就職情報サイトを主にしながら検討していることが分かる。CC手帳の情報を参考にした学生は2名と少ないが，2名だけでも参考にしてしている学生がいたことはCC手帳を作製した側にとって評価したい数字である。一方で，PLACEMENT GUIDEBOOK^[3]を参考にした学生がある程度いることにも注目したい。昨年度までは，冊子で配布していたが，今年度3年次からはCD-ROMでの配布となった^[4]。このことによる影響を懸念しているため，今後注視していきたい。

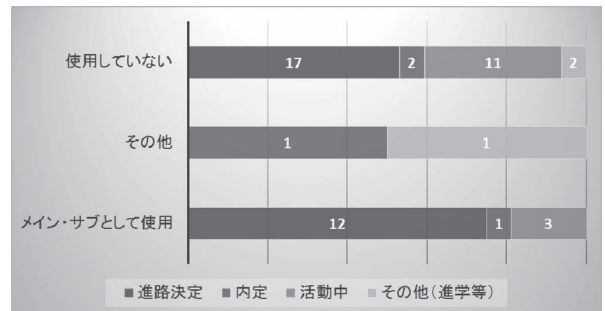


図11 CC手帳の利用と就職活動状況の関係

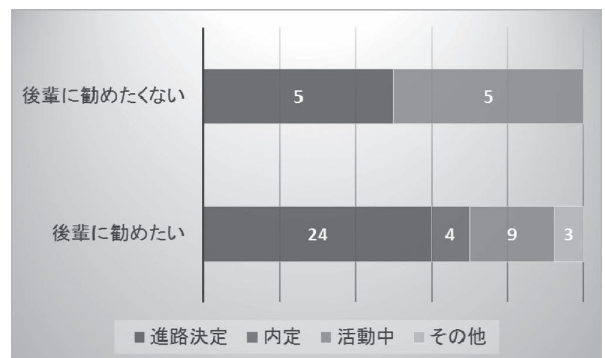


図12 後輩への推薦と就職活動状況の関係

最後に，CC手帳の利用形態と就職活動状況の関係を調べるためにクロス集計を取った結果を図11に示す。メインもしくはサブとしてCC手帳を使用した人のうち，内定者

は81%，未内定者は19%であり，使用していない人のうち内定者は59%，未内定者は34%であった。人数に差があるので参考として見るべきであるが，使用・未使用者で有意

な差が見られる。この差は CC 手帳の効果があったというよりも、CC 手帳に対して好意的な学生がサブとして使用していると回答している傾向があり、CC 手帳に否定的な学生は使用していないと回答する傾向がある。そこで、図 12 に後輩へ勧めたいかを問う設問結果と就職活動状況のクロス集計を取った。この図も母集団が異なるのであくまで参考であるが、図 11 と同様の傾向が見受けられる。

4. おわりに

本研究では学生の生活やキャリア意識の向上のために学科独自の CC 手帳を第四版まで作製・配布し、4 年次生を対象とした利用状況の経年的な変化を中心に調査した。その結果、就職活動時期に入ったあたりで CC 手帳の有益性を改めて理解されるようになり、CC 手帳に対して好意的な学生が内定を取りやすい傾向にあることが分かった。

今後は 4 年次の卒業間際に最後のアンケートを取り、効果を改めてまとめたいと考えている。さらに、その結果を低学年に周知し、CC 手帳の利用や就職活動の指導をしていく。

謝 辞

本研究は平成 24、25 年度に広島工業大学プロジェクト教育開発センターで遂行したものです。今年度も地球環境学科の全面協力の下、実施いたしました。CC 手帳の配布やアンケート等、多くのご協力を頂いた地球環境学科教職員に厚く御礼申し上げます。

文 献

- [1] 伊藤, 岡, 田中, 内藤, 「大学生生活とキャリア意識の向上を支援する CC 手帳の開発とその効果」, 広島工業大学紀要教育編, Vol. 13, pp. 1-8 (2014)
- [2] 伊藤, 岡, 田中, 内藤, 「大学生生活とキャリア意識の向上を支援する CC 手帳の開発とその効果（第二報）」, 広島工業大学紀要教育編, Vol. 14, pp. 1-85 (2015)
- [3] 広島工業大学就職部, 「PLACEMENT GUIDEBOOK」(2013, 2014)
- [4] 広島工業大学就職部, 「PLACEMENT GUIDEBOOK (CD-ROM 版)」(2015)